



一部役員によるＪＲ東労組の分裂＝組織破壊策動を許すな！

ＪＲ総連・ＪＲ東労組に結集するすべての組合員のために

ＪＲ東労組１２地本の総団結をはかろう！！

１月２３日ＪＲ東労組は「組合員の雇用と利益を守る新生ＪＲ東労組に対し、分裂策動を行う者たちを許さない１．２３見解」を発出した。

この見解によると、現在水戸・東京・八王子の一部職場で、新生ＪＲ東労組から分裂する動きがあり、ある職場では「ＪＲ東労組に残るのか、分裂組織に行くのか、組合を辞めるのかの選択を迫られている」という組合員からの報告が挙げられている。さらにそのことを裏付けるかのように「真実の目」にも、「仲間を見殺しにするような彼らとは決別し、組合員のための真っ当な労働組合を立ち上げるべきではないか」という声が高まっているなどと、分裂を思わせるような書き込みも行われている。

「真実の目」は、「真実の声」が東京地本元役員が管理していたことが判明し、閉鎖されて以降開設されたホームページであり、誰が管理しているかは不明ではあるが、「真実の声」と同様に、新生ＪＲ東労組に対する誹謗・中傷を行う組織破壊であることに疑いの余地はない。

ＪＲ東労組は、今年の第３８回定期大会で山口委員長は挨拶で「組合員の離脱を生み出した多くの誤りを反省し、労働組合らしく組合員の力で茨の道を歩み、難局を切り開いていく」こと、そして今年の年頭の挨拶でも「新生ＪＲ東労組運動の旗のもとに集結し共に闘おう」と決意が述べられていた。

しかし１８春闘をめぐる混乱が解決されていないばかりか、ＪＲ東労組を分裂する策動が行われているという。私たちＪＲ貨物労組は、ＪＲ東労組１２地本の総団結を阻害・妨害し、分裂＝組織破壊を策動する一切の行為を許さない。

現在安倍政権による政治の私物化と日本を戦争のできる国にしようとしていることに対して、労働者・市民団体が立ち上がらなくてはならない時に、さらに２０春闘を間近に控え、組合員の負託に応える闘いの構築にむけて組織の強化・確立を図らなくてはならない時に分裂を図ろうということは、すべての組合員・労働者を裏切る行為に他ならない。

私たちＪＲ貨物労組としても、新生ＪＲ東労組を支え、ともに歩むために、全力で闘うこととする。あわせて、ＪＲ貨物労組としての総団結の実現にむけて、邁進していくことを明らかにする。

共に闘おう！

2020年1月24日

日本貨物鉄道労働組合